

# 長野市民新聞

7月31日(木)

長野市民新聞社

編集制作センター  
〒380-0943 長野市安茂里1029-1  
フリーダイヤル  
0120-06-5511  
TEL 223-5511 FAX 223-5500  
shinim@avis.nc.jp

長野へ  
R19  
丸コメ街  
円波島橋へ

南長野支社  
〒388-8007 長野市穂ノ井布高田1235-3  
TEL 299-5988 FAX 299-5977  
minamis@grn.janis.or.jp

©長野市民新聞社 2014

# 「更級」をブランド化

長野市南部から坂城町までの千曲川左岸を中心に、かつて地を名として親しまれていた「更級(さらしな)」の呼称をブランド化して地域ついで設立しようと、千曲市の住民有志が活動を始めた。全国的に知名度が高い「さらしな」の名を特産品に用いて発信していくことや、さらしなに関連した文学・芸術作品の発掘、創出を進める。11月には活動を周知する「キックオフ集会」を開く。

更級の地名の由来は諸説あるが、一説には、冠着山の麓に棚田が次々と作られていくから新しく意味する「更」と、段差を意味する「級(科)」から名付けられたとされる。平安時代中期の回想録「更級日記」や、江戸時代の俳人・松尾芭蕉の旅行記「更科紀行」などでも知られる。1879(明治12)年には箱崎山町と周辺の約60村が旧更級郡となったが、度重なる市町村合併で規模が縮小、2005(平成17)年に旧更級郡6町村が長野市に合併して更級の地名は消滅した。現在は千曲市小学校名や慶應の施設名として残るだけだといふ。

## 特産品名などに使って— 有志「地域づくりに」



旧更級郡を見下ろす「姨捨の棚田」。「さらしな」の地名を地域づくりを生かす取り組みが始まった

### 11月には周知の集会

感懐いた千曲市若宮の出版企画「さらしな 玉泉在住」を中心に、堂代表で、通信社に勤務する大谷善邦さんと旧更級郡域の住民有

志約10人が5月に検討会を発足。月1回ペースで集まり、名称を活用して地域の産業振興や住民の一体感を醸成しようする方法を

### 浴衣姿で風景印集め

5日善光寺周辺の3郵便局

善光寺周辺を浴衣姿で散策してカ所の郵便局を訪ね、地域の名所や名物の絵が久った記念の消印「風景印」を集めるイベント「浴衣で善光寺限外(かいわい)風景印さんぽ」が8月5日に開かれる。手紙に親しむ7月23日の「おみの目」にちなみ日本郵便のスタンプラリー企画と連動し、西之門町の企画編



### 親子で野菜収穫箱膳料理を体験

長野市農業公社は9月7日、市内の親子を対象に、鬼無里地区で

旬の野菜の収穫と箱膳の体験イベントを開く。

9時30分のバスで午前9時10分にJR長野駅東口、9時45分に田町のJAながの会館を出発。鬼無里の農場で

模索している。手始めのキックオフ集会は11月8日千曲市上山田温泉の一市総合観光会館で開く。さらしなの人々の対象となった理由などについての講演を予定している。今後は鶴岡寺の団体を募り、交流会や勉強会を重ねる活動を広げていく方針だ。大谷さんは「1月の名所として知られた更級は、平安時代の貴族や松尾芭蕉などの文化人が憧れた地。日本を代表するブランド地名を大いに活用したい」と意気込んでいる。

1